

理事長室から

木下 統晴



恩師の教え

1月11日から水曜日の夜。3回に亘ってリーダーシップ論を11名の大学院生の方々に講義しました。私の話は、約半世紀に亘って現場実践で培った泥臭いものです。

明治製菓、シーエムプラス（コンサル）、化血研、熊本保健科学大学など色々な仕事に従事してきましたが、社会人としての基本となったのは、恩師、柴田元雄先生の教えだと考えています。初めてお会いした時、先生は、武田薬品の研究所から大学に転籍され、47歳でした。学生の私たちには、「実験科学者たれ」、仕事は「ジッヘルに（確実に）」など、いつもワイシャツの袖をまくり、腰手拭いで実験され、山ほどのシャレを自分で洗っていらっしゃったお姿が心に浮かんできます。先生は、このような実験や実践の中で学生を指導されていました。

社会に出て約半世紀、73歳になった今でも忘れません。社会に出て多くの難しい課題も、先生の言葉や指導を基本に乗り切ってきたと思います。

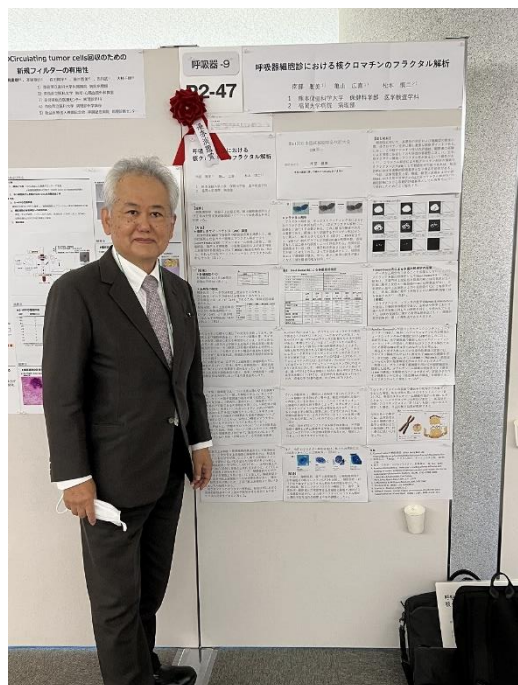
先生の教室での3年の短い期間が、自分の一生を最も大きく左右したと思っています。大学院での実験三昧、情熱と集中の毎日は、社会に出ても大きな自信となりました。

ボーイズ・ビー・アンビシャスのクラーク博士も、たった9カ月の札幌農学校赴任でした。恩師との出会いは、短くても、とても重要な影響を与えるものです。

卒業と入学、大きな期待を込めて社会に巣立つ卒業生、期待に胸膨らむ新入生を思い、「仰げば尊しわが師の恩」を振り返った次第です。

日本臨床細胞学会秋期大会

南部教授、亀山講師らに優秀演題賞



受賞した演題の前に立つ南部教授

SG学生の卒研を再検討

南部雅美教授（医学検査学科長）と亀山広喜講師（同学科）、松本慎二氏（福岡大学病理部）の共同研究が昨年11月5日（土）、6日（日）に仙台市で開催された第61回日本臨床細胞学会秋期大会で優秀演題賞（一般演題・示説）を受賞しました。

タイトルは「呼吸器細胞診における核クロマチンのフラクタル解析」。これは、令和3年3月に卒業した南部教授のスマールグループ（古賀紗也乃、椿夏香、福田有香、古澤一輝、溝口直紀、宮川裕司、山本優香）による卒業研究を南部教授たちが再検討し、さらに磨きをかけたものです。

本研究は、核クロマチン形状の複雑性をフラクタル次元により数値化し、クロマチンの性状を判別できる可能性を示唆しています。

受賞した南部教授は「何よりも嬉しかったのは、学生と行った研究にて優秀演題賞を受賞できたことです」と喜びを口にしていました。

（入試・広報課）

飯山 準一教授 (図書館長)



図書館主催の第60回「私の部屋でランチを」が2月28日(火)、キャンパステラスであり、今春、図書館長を退く飯山準一教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) =写真=が「人生はプランB-私の働き方改革2023」と題して講演しました。

遺伝性の難病を抱える飯山教授は、若い頃から進みたい道、やりたい事があっても、変更せざるをえない状況にたびたび直面してきました。講演では、「多くのプランB(代替案)を選択してきた」という半生をたどる一方で、「チャレンジせずにはいられない」性格で進んだ医療の世界での奮闘ぶりも紹介してくれました。

飯山教授が唯一の「プランA」と語ったのが2008年、38歳の時の本学赴任でした。以後、「温熱(研究)でリハビリの新たな地平を切り開く」という意気込みは、産学連携での温熱デバイス開発、数多くの研究論文、学会発表となって結実。飯山教授は、本学で過ごした15年間をスライドでたどりながら、「この大学に育てられたのは間違いない」と語りました。

飯山教授が「私の部屋でランチを」に登壇するのは、第1回以来2度目です。新年度からは特任教授に移行することになっており、「もがくなり前に進んでいくのは自分らしい(生き方)。これからも一期一会を大切に、無理せず怠けず、てくてくと歩んでいきたい」と講演を締めました。(NL編集部)

2月22日(水)「合理的配慮提供に関する講演会」をZoom及び1300L講義室で開催し、富山大学保健管理センター客員准教授の西村優紀美先生に「障害学生支援と合理的配慮の考え方～発達障害学生への支援を中心に～」というテーマでご講演いただきました。

令和3年5月の法改正により義務化となった合理的配慮提供について、その概要や支援体制の整備、そして年々相談が増加している発達障害のある学生への支援について具体的事例を交えてご教授いただきました。また、事前質問についても詳細な回答をいただき、合理的配慮について学ぶ貴重な機会となりました。

今回の講演会を通じ、障害による社会的障壁を知り、大学全体で支援する体制を構築すること、そして何より、学生としっかり対話することが重要だと改めて感じました。

学生相談・修学サポートセンターは、さらなる支援の充実・強化に努めてまいります。引き続き、教職員の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。(学生相談・修学サポートセンター)



缶バッジが仲間入り

図書館グッズに缶バッジが仲間入りし、2月28日(火)に開催された「私の部屋でランチを」の会場で、参加者にお披露目されました。缶バッジは直径3センチで、本の妖精ホカボンとホカじいポーズを取った4種類です=写真=。図書館ではこれまで提供してきた、バッグ、クリアファイル、ミニノート等の図書館グッズと共に、学内での読書推進と図書館利用増に向けた取り組みの中で活用していきます。(NL編集部)



図書館だより

看護学科主催の地域看護研究会が2月18日（土）、キャンパステラスであり、富山県立大学看護学部の佐伯和子教授が「保健師教育の展望～時代の要請に応える保健師教育（基礎教育・現任教育）とは～」と題して講演しました。

初めてのハイブリッド開催で、学内外から計49人（対面21人・オンライン28人）が参加。講演後は「コロナ禍の中での活動の振り返りと、今後の保健活動をイメージすることができた」「教育現場の学生に対する思いを知ることができた」「保健師のアイデンティティをしっかりと持ち、社会を健康にするため自己研鑽していきたいと思った」等の感想が聞かれ、有意義な研究会となりました。

本学では、令和7年度から保健師養成のための「専攻科」を開設します。今回の講演は、これからの時代に貢献できる保健師養成の必要性について再確認する貴重な機会となりました。（看護学科・戸渡洋子）



地域看護研究会で講演する佐伯教授

ハラスメントをなくせ！ 防止研修会で理解深める

ハラスメント防止研修会が2月17日（金）、1300L講義室およびZoomで開催され、21世紀職業財団の深海慶子ハラスメント防止研修客員講師が「キャンパスハラスメント防止研修」と題して講演しました。

深海講師は、ハラスメントが起こりやすい背景のほか、セクシュアル、パワー、アカデミックといった各ハラスメントの定義や判断基準などにつ

いて、様々な報道事例を用いて解説。ハラスメントをなくすために気を付けることとして、人権意識を持つこと、普段からコミュニケーションを取り仲間と一緒に環境をよくすることなど、具体的に説きました。

これらを踏まえ、その予防と対策として「最も重要なのはトップのリーダーシップと管理職の意識」と訴えました。（入試・広報課）



感謝の心で駅清掃

学友会による今年度2回目の西里駅清掃が2月25日（土）に行われ、約60人の学生が参加。西里駅の西側（大学側）に伸びていた枯れ草を皆で刈り取りました。約1時間の清掃で約60袋分ものゴミを集めました。参加した学生の皆さんお疲れ様でした。次回の清掃は3月18日（土）の予定です。

（入試・広報課）

今週の1枚

インフォメーション

週間行事予定（3月4日～3月17日）

3 / 10（金）	卒業式
3 / 15（水）	理事会・評議員会 大学訪問（矢部高校・天草高校倉岳校）